

case
06

熊本県立阿蘇中央高等学校

阿蘇市一の宮町宮地4131(阿蘇清峰校舎)

日々の実習を通して、
阿蘇の未来を担う人材へ

普段から「阿蘇学」と称した総合的な探究の時間に阿蘇ジオパークと地域農業の営みについて学習しています。草原維持活動やあか牛の育成、商品開発等の視点から、様々な実習を通して、豊かな阿蘇の資源の維持・有効活用について改めて考えることができました。

草 原 維 持 活 動

グリーン環境科では、毎年3月に行われる野焼き実習に向けて、輪地切り・輪地焼きといった野焼きの準備を行っています。

輪地切りは9月13日(水)に実施。生徒たちは3つの班に分かれ、一人一台ずつ刈払機を使って、6～10mの範囲の草を刈り残さないよう慎重に刈ります。急な斜面での作業となるため、怪我に注意しながら実習を行いました。輪地焼きは10月13日(金)、輪地切りで刈った草が枯れた後に行いました。枯れた草を寄せ、燃やすことで防火帯を作り、野焼きの際の延焼を防ぎます。



あ か 牛 肉 の 消 費 拡 大

■ あか牛の新メニュー考案

社会福祉科では、あか牛肉の消費拡大の取り組みとして、あか牛肉を使ったレシピの開発を試みました。12月8日(金)と12日(火)の2日間にわたって調理実習を行い、あか牛肉の炊き込みご飯やローストビーフのベーグルサンド、肉巻きおにぎり、牛肉おにぎりなど様々なレシピを作成しました。



あ か 牛 の 育 成 に よ る 草 原 活 用

農業食品科では、あか牛の人工授精から出産、飼育、放牧出荷までの一貫した実習を行っています。実習を通して、あか牛の育成という観点から草原活用に取り組みました。ストレスのない健康的なあか牛を生産するために、安全な飼育環境を整え、阿蘇中央高校の春牧農場に新たな牧柵を設置しました。



■ ソーセージづくり

農業食品科では、肉質が硬いためにあまり利用されないあか牛のネック肉を使ったフランクフルトソーセージの製造に取り組みました。11月27日(月)には挽肉と塩漬、12月4日(月)には練りと腸詰め、乾燥、ボイル、包装と、2日の工程を経て、ソーセージをつくりました。味は基本配合の「ノーマル」と、「バジル」の2種類を製造しました。

完成したソーセージは、12月23日(土)に開催された「県立高校学びの祭典」で販売しました。



令和5年度

阿蘇世界文化遺産
教育モデル校事業
活 動 報 告

「阿蘇」は、活発な火山活動により形成された広大なカルデラとその周辺に6万人もの人々の暮らしが営まれている、世界にも例を見ない地域です。

その火山と共生してきた阿蘇の人々が長い年月をかけて守り継いできた美しく、雄大な景観を後世にわたって維持していくため、熊本県と阿蘇郡市7市町村は、世界文化遺産登録を目指した取り組みを進めています。

阿蘇世界文化遺産
教育モデル校事業とは？

将来の阿蘇地域の担い手である子ども達に、世界文化遺産登録を目指す阿蘇の自然や文化等の魅力に気づいてもらうため、阿蘇地域においてモデル校(中・高)を選定し、学校教育の一環として様々な活動に取り組んでいただく事業です。令和5年度は、6つの学校がモデル校に選ばれ、体験学習や発表を行いました。

case
01

熊本県立高森高等学校

高森町高森1557

草原資源に実際に触れて、
新たな価値の創造を考える

毎年、総合的な探究の時間「南郷学」において、地域貢献活動に取り組んでいます。今年度は、茅の学習を通して阿蘇の草原資源の利活用について考えました。

ワークショップ

■茅を用いた小物・インテリアの作成

9月20日(水)、1年生を対象に外部講師を招いて、「茅(かや)」を使用したワークショップを行いました。

「茅の魅力と可能性」をテーマに、茅の定義や茅の需要と供給、世界での茅の注目度、茅葺屋根以外の使われ方、また茅などの草原資源の利用が阿蘇の草原の維持につながっていることを阿蘇の草原の現状を含めて学ぶことができました。

講演後は、班ごとに分かれ竹と茅、LEDライトを使ったインテリアライトの作成に挑戦しました。芯となる茅はカッターやハサミを使って長さを整えましたが、簡単に切ることが出来ず、改めて茅の丈夫さを実感する生徒もいました。苦戦しながらも生徒は思い通りのインテリアライトを完成させることができました。

生け花のような飾りを施した、見本とは大きく異なったインテリアライトに外部講師は

「みなさんのような若い人の新しい発想力・新たな視点大切です」と話され、「茅の利用方法について新たな価値を創造していくて欲しい」とまとめられました。



■ 「草原キッズにゅーす」のぬりえコンテスト用イラスト作成

子どもたちに阿蘇の草原に興味を持ってもらうきっかけづくりとして年に1回発行され、阿蘇郡市内の小学校に配布される「草原キッズにゅーす(阿蘇草原再生協議会草原環境学習小委員会発行)」。誌面上で行われる「ぬりえコンテスト」のイラストを、今回初の試みとして、新たに創設された高森高校マンガ学科の1年生が制作しました。32作品が制作され、実際にぬりえコンテストに使用される作品を最優秀賞、それに次ぐ作品を優秀賞として選出し、9月27日(水)に

草原キッズにゅーすぬりえコンテストの表彰式が行われました。



ぬりえコンテストは阿蘇郡市内の小学校、1～6年生を対象として開催され、過去最高となる811点の作品が応募されました。2月10日(土)には、阿蘇草原保全活動センターにて表彰式が行われ、特別賞(高森高校賞)を含む10点の作品が表彰されました。イラストの制作を通して、子どもたちに阿蘇の草原の大切さを知ってもらうにはどうすればいいのか、どうやって次世代に繋げているかを考えるきっかけになりました。

case
02

南阿蘇村立南阿蘇中学校

南阿蘇村河陽3645

自分たちが暮らす地域について
考えるきっかけに

阿蘇の価値や魅力を啓発するため、学校教育の一環として阿蘇の自然や歴史、文化等の学習を行っています。阿蘇火山博物館の見学を行うことで、阿蘇の成り立ちや魅力を改めて知り、自分たちが暮らす地域について考えるきっかけになりました。

ワークショップ

■ 阿蘇火山博物館見学学習

9月11日(月)、校外学習として、1年生が阿蘇火山博物館と草千里を訪れ、現地学習を行いました。

午前中は阿蘇火山博物館内を見学。クラスごとに分かれ、学芸員の案内のもと、館内の展示物や映像、実験を通して、阿蘇の地形やその成り立ち、歴史を学習しました。風船をマグマ

だまり、小麦粉を土に見立てた火山の成り立ちを学習する実験では、生徒が興味深く実験の様子を見つめ、その仕組みを学ぶことができました。また、噴火の様子を再現したジオラマや火山灰が北海道まで届いたこと、巨大な火山弾の展示、野焼きをなぜするかなど、驚きながらも真剣に聞き入り、自分たちが暮らす地域のことを改めて知ることができました。



草千里での昼食後、草千里ヶ浜の池を観察しました。池の冷たさに驚きながらも、自然の豊かさを改めて確認することができました。

case
03

阿蘇市立阿蘇中学校

阿蘇市内牧609

事前学習で学んだことを、
体験を通して深める

自分たちの住む阿蘇について知るため事前の出前講座や阿蘇についての事前学習を行い、体験学習として中岳の登山を実施。実際に見ることで、世界文化遺産を目指す阿蘇の価値や魅力について理解し、その良さや課題を知ることができました。

出前講座

9月29日(金)、熊本県文化企画・世界遺産

推進課の職員による、阿蘇の世界文化遺産登録についての出前講座が行われました。

なぜ阿蘇は文化遺産を目指すのか、どうして文化遺産なのか、どうしたら登録になるのか、自分たちができることは何なのか、自分たちの住む阿蘇の価値や課題について改めて考えるきっかけとなった時間でした。

事前学習

10月18日(水)、阿蘇火山博物館から学芸

員の豊村さんをお招きし、阿蘇火山についての講演会を開催しました。動画や画像を用いて阿蘇のカルデラの地形を再確認し、地形が形成された経緯等を知ることができました。



「阿蘇に住んでいると当たり前になっていて気づかない、阿蘇の良さがある。」との話がありました。

現地学習

10月24日(火)、1年生が、阿蘇青少年交流の家のガイド2名による同行のもと、仙酔峡から火口東展望所経由のルートで阿蘇山の中岳登山に挑戦しました。登山中、噴火用の退避壕に興味を示し、「これは何だろう」「噴火した時に逃げるところだ」と生徒同士で話したり、登山道の石や砂の色が段々と変わってきていることに反応したりと、事前学習で学んだことを再確認し、火口を眺めながら阿蘇の雄大さを体感する姿が見られました。

生徒たちは、「私たちの近所にこんな景色があると思わなかった」「生まれてからずっと阿蘇に住んでいたけど、今回の学習で阿蘇の地域性や取り組みをいろいろ知って、実際に

登山をして、改めて阿蘇の自然のすごさを体感した」などと話し、阿蘇に対する理解を深め、魅力を再確認していました。



学習発表

12月8日(金)、学習発表会を開催しました。これまでの出前講座や講演会、登山で学んできたことを身振り手振りを交えながら発表するグループもありました。授業参観だったため、多くの保護者の方に阿蘇の魅力を伝えることができました。

case
04

小国町立小国中学校

小国町大字宮原200-1

自分たちの住む阿蘇の歴史や
自然について、様々な角度から深く学ぶ

阿蘇に住みながらも火口を見たことがない生徒も多かったことから、出前講座で阿蘇地域について再確認しました。現地学習として国造神社や中岳火口、草千里、日本リモナイトの見学を通して、阿蘇地域の自然や歴史的価値・課題について深く学ぶことができました。

出前講座

11月9日(木)、熊本県文化企画・世界遺産推進

課の職員による、阿蘇の世界文化遺産登録についての出前講座が行われました。世界遺産の定義をはじめ、国内外にある世界遺産や、県内の世界遺産を教えてもらい、世界遺産の価値や基準等を知ることができました。「私達が住んでいる阿蘇について今まで知らなかったことも、より詳しく深く知ることができました。私達もこの美しい阿蘇を守り続けていこうと思いました。」と生徒から感想が述べられました。

現地学習

11月16日(木)、阿蘇地域の歴史や自然を学ぶため7年生が、現地学習を行いました。

最初に、国造神社を見学し、「道の端にある地蔵や石、木にも信仰や伝承が残っている。そ



れにまつわるお祭りがあることもある。そういうものに興味を持って、地域の祭りなどに積極的に参加して欲しい」という宮司さんのお話に、自分たちの住む地域のことについて知ることの重要性を再確認することができました。



中岳火口では、初めて訪れる生徒も多く「すごい」と言いながら噴煙を上げる火口の写真や動画を撮影していました。



最後は、日本リモナイトを見学。赤くなっている用水路を観察し、阿蘇黄土と呼ばれるリモナイトがどのようにできたのか説明を受け

ました。実際に蛇口から出てくる水を試飲し、リモナイトを加熱する実験や消臭効果を試す実験等、体感を通してリモナイトについて学ぶことができました。



まとめ学習

11月24日(金)、現地学習で学んだことをもとに、8班に分かれて発表を行いました。

感想をイラストで紹介したり、現地学習の際に撮影した動画を使って発表を行ったり、班ごとに工夫した発表が行われました。実際に現地を訪れて知ったことをもとに分かりやすく効果的な発表へと繋げることができました。

case
05

南小国町立南小国中学校

南小国町赤馬場1833

実体験を通して、阿蘇の草原の
成り立ちや役割を知る

1年生の時に阿蘇火山博物館や南阿蘇村の熊本地震震災遺構等の見学を行い、阿蘇の成り立ちや農業などについて学びました。2年生になった今年度は、事前に野焼きについて学習した後、現地での草原学習を通して、阿蘇の草原の成り立ちや役割、野焼きを行う理由について学びました。

事前学習

10月2日(月)、阿蘇の野焼きについての事前学習を行いました。最初に「なぜ、阿蘇では『野焼き』を行うのだろうか?」という議題で意見交換を行いました。「おいしい牛を育てるため」や、「きれいな草原を保つため」といった意見が出ました。意見交換後は、タブレットを使い、野焼きが行われる理由と課題について調べ、3人1組の班を作り班ごとに結果を共有しました。調べても分からない部分や調べて出てきた疑問などは、5日の現地学習で外部講師に聞くために質問票を作成しました。



現地学習

10月5日(木)、阿蘇グリーントックから外部講師をお招きし、押戸石の丘で現地学習を行いました。

草原に住む生き物の存在を音で感じたり、草原の所々にある木や植物を観察したり、斜面を駆けまわったりと草原を肌で感じ楽しみました。

事前学習でまとめた質問から、外部講師は「野焼きはこれからも続けていく必要がありますか」「なぜ草原の森林化を止める必要があるのですか」という質問を取り上げて回答。「今草原があるということは、毎年野焼きを行



うことを選んできたということ。森林にするのも草原を保つのもどちらが正しいとかではない。この質問にも答えはなくて、今の景色には今の景色になるだけの理由と選択がある。これから生きていくみんながどんなふうにしていきたいにかかっています」と話されました。

